

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	高齢者グループホーム はる 1階	評価実施年月日	平成20年10月1日
評価実施構成員氏名	工藤・熊沢・佐藤・浅野・道下・鉢呂・大段・紙谷・上西		
記録者氏名	工藤知伸	記録年月日	平成20年10月15日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	介護サービスを提供する上での基本方針としている		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の理念に基づいて取り組んでいる。	○	職員全体が基本方針を念頭におけるよう、会議の中においても再確認していく。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	近隣の商店に利用者を伴って買い物などに行ったり、近くの公園に散歩に行ったりしている。	○	地区センターでのサークル活動の見学などを検討していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎年「敬老の日」「開園記念日」には、近所に紅白饅頭を配ったりしている。今年は敬老の日に、お向かいよりお花を頂く。		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、班長なども勤め、町内会費の集金などには、利用者を同行して各戸を回った。 管理者は、地域活動に参加し地域の人と交流を深め、介護等の情報の発信などにも努めている。地域の人から、ポータブルトイレの寄贈を受ける。		
6	○ 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方に、地域運営推進会議のメンバーとして参加していただいている。	○	地域にいる高齢者の把握などをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日常生活の中で、介護計画書における援助目標などを実践できるよう努めている。	○	全体会議・フロア会議などを通して、自己評価・外部評価の意義を確認していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、色々な事例報告を通し、サービスの実際を知ってもらい、アドバイスなどを聞いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	会議・研修会の提出以外には行き来する機会は少ないが、生活保護の利用者については、保護課職員と連携の上、行き来する機会を設けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用はしていないが、すでに研修会に参加し、その必要性は感じているところである。	○	身元引受人の不明な人については、成年後見制度の活用が必要と思われる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の観点から、利用者の権利を作成し、職員にも周知している。	○	毎月開催しているフロア会議(サービス担当者会議)において、改めて虐待の事実がないかを確認していきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書・契約書を家族に説明し、質問・疑問等には、常に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特にそういう機会はないが、生活保護の人は市の保護課の担当者、ならびに民生委員との面会の場を設けている。	○	利用者が持つ、不満・苦情をどうすれば聞くことができるのか、外部者とは、どういう立場の人なのか検討していきたい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	3ヶ月ごとに家族に個人個人の新聞を作り、健康状態・行事などの写真を載せ、発送している。又、金銭管理については、手許金明細書などを請求時に同封している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員がいつでも苦情を聞く体制は出来ている。	○	家族会などを設け、不満・苦情などを率直に言えるような機会を作っていきたい。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月末に行われる全体会議、第一水曜日に行われるフロア会議、必要な時に開かれる主任者会議を設け、出来るだけ沢山の職員の意見を反映させる努力をしている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急時などには、事務長・主任などが対応にあたるなどの体制が出来ている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	一階と二階の職員の異動を4ヶ月ごとに1名ずつ行なうことにより、各階の職員が、どの利用者にも対応できるような体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎年、札幌で行われる「グループホーム介護スタッフレベルアップ研修会」(一泊二日)には、二名ずつ参加し、意識向上に努めている。	○	車椅子利用者の入浴方法など、当施設にあった技術的指導を受けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当ケアマネジャーが月一回、地域包括支援センターにて、他の施設職員と情報交換するなど、交流を深めている。	○	8月に他の施設で起きた行方不明事故を教訓とし、同業者とのネットワークを作り、事故発生などの連絡網なども検討していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	より働きやすくするための工夫は、その都度検討し、改善している。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得に関しては、有休を使うなどの配慮をしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所当初は、出来るだけかわりを持ち、不安を解消し、環境に慣れるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者ばかりでなく、家族の訴えを十分に聞く姿勢をいつも持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その本人にとっての問題点などを職員間で話し合い、迅速に対応するよう努力している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所することに本人が納得しない時などは、おやつの時に来てもらったり、昼食を家族と同居してもらうなどの対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中、また各種行事等で、共に時間を共有することによって、利用者の性格を知り、仲間意識が芽生え、より良い信頼関係を構築するよう努力している。	○	認知症予防の為、計算、漢字等のドリルを実施。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の中には、自ら入浴時に着脱の介助に来てくれる方もおり、職員とも良好な関係を保ち、ともに喜怒哀楽を共有している。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お年寄りが入居することにより、本人と家族の確執がなくなり、親子関係を取り戻すことが出来た家族もあり、これからも家族との関係の理解に努めていきたい。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望により馴染みの人を訪問・又電話にて会話をする。	○	なじみの人にも、訪問してもらえるよう働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人ひとりの希望を踏まえたうえで、利用者同士の交わりを十分に考慮し支えている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ドライブ・買い物・温泉、以前住んでいた住居への訪問等を行なっている。	○	今後、必要であれば、どんな形で継続できるか、検討していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の中にはトイレの場所がわからない人もおり、大きなトイレの表示をしたりしている。	○	思いや意向を伝えられない利用者もあり、職員が気持ちを把握する努力が必要である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に生活歴などを記入していただき把握している。	○	入居時に家族とも、アセスメントを行なうが、なじみの暮らし方などを十分に把握で出来るよう努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	午前のラジオ体操、午後のリハビリ体操を毎日の暮らしの中に取り入れている。	○	一人ひとりの過ごし方などきめ細かい配慮が出来るよう努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	フロア会議(月1回)にて、機会がある毎に、職員間で話し合いの機会を設けている。	○	家族の意向を十分に反映させられる介護計画にするため、普段から家族とも十分に連絡を取れるよう配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、新たな課題が生じた時は職員間で話し合い、又、家族にも、その旨を報告している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は毎日記録し、職員が情報を共有出来る体制が整っており、介護計画見直しや、実践に役立っていると思う。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の要望には出来るだけ応じられるよう努力している。 温泉、薬草風呂の入浴・飲み会など等	○	家族や本人の要望には、出来るだけ応じられるようにしているが、事業所の機能性を高められるよう配慮していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア(音楽・手品)の慰問を受けている。	○	運営推進会議などに、民生委員にも参加してもらったこともあるが、他の機関とも今後協力してもらえよう働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	デイサービスの利用を検討したことがある。	○	地域における他のサービス事業者とも話し合える機会を持てるよう検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネージャーが、地域包括支援センターとの懸け橋となり必要な調整に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれの利用者・家族の希望を踏まえながら、適切な医療体制を整えている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在、協力医院等の週1回相談や指導を受け実施している。	○	認知症専門医に直接診療を受けることはしていないが、必要な利用者には、そのような支援もしていきたい。
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の中に3人看護職員を確保しており、健康管理を支援している。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、病院関係者と協働し、連携している。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した利用者については、ほとんどの場合、病院で亡くなるケースが多いが、そんな場合はかかりつけ医とも話し合い、家族と協力して支援している。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した利用者について、本人の現状、今後の変化などを職員全体が把握した上で、ケアにあたるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居に伴う、環境変化により、不穏とならないよう、職員が気を配り、ケアにあたっている。		
・ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は利用者の誇りや、プライバシーを尊重しつつ、場面に応じた適切な声かけをするよう気を配っている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意思の疎通が難しい利用者にも、出来るだけわかりやすい言葉で理解出来るよう話してしる。	○	利用者全員が、思いや希望を表に出すことが出来ず必ずしも、希望をかなえられないこともあり、今後の課題として、検討していきたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先することなく、一人ひとりのペースを尊重した上で毎日過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容・美容の希望があれば、送迎の支援をしている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	味噌汁作り、材料の下ごしらえなど、利用者が出来ることは、みんなで協力してもらっている、配膳、後片付けなども手伝ってもらっている。 利用者の誕生日には、その人の好みの物を用意したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒の希望者には、夕食時に提供している。また、喫煙に関しては、場所を定め、タバコの管理は職員が行うようにし、楽しみながら、喫煙している。		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用者についても、排尿、排便を記録(排泄パターンの把握)することで、ポータブルトイレに移行できるように支援をしている。車椅子生活者にも、排泄は出来るだけポータブルトイレを使うなどの支援を続けている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回限られた時間での入浴であるが、他のユニットの入浴日を利用すれば、週4回の入浴が可能である。お風呂好きな人、2名が週4回の入浴を楽しんでいる。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの利用者に寝具類の洗濯なども記録し、いつも清潔な状態になっているよう支援している。夜間は、室温などにも注意し、暑かったり、寒かったりしないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々生活の中に書き取り、書道、盆踊り、体操、歌などを余暇活動として取り入れている。毎年行事として、美瑛の丘、紅葉散策などを可能な限り外出の機会をもっている。	○	それぞれの人が、十分力を生かせるような取り組みをしていきたい。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望者には、現金を持たせ、買い物してもらったり、支払の練習をしてもらうよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物希望する利用者に同行し、買い物の支援をしている、二日に一度の食材の買出しには、利用者が気晴らしに同行している。(日常的に実施)		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	夏のラベンダー散策、紅葉狩りなど季節ごとの行事には、外出の機会を出来るだけ設けている。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者には、手紙を出したり、電話をかけるなどの支援をしている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも、誰でもが、訪問できるように取り組んでいる。(安全確保のため、玄関に施錠しているが、チャイムを鳴らすことで、職員が直ぐに開錠する。)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は、徘徊等による危険防止のため、やむを得ず行なっているが、それ以外の身体拘束は一切行なわず、職員も十分に周知している。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊等による事故発生が懸念されるため、玄関には、終日施錠し、家族からの要望につき窓に柵をつけている利用者が一名いる。来客などには、チャイムを鳴らすことにより、職員が直ぐ開錠することとし、施錠についても家族に説明し理解をえている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼は終始、3名の職員が利用者の様子を把握し、夜は、2～3時間毎に見回りするなどの体制を整えている。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の居室内での持ち物については、掃除の時などにそれとなく注意を払って点検するようにしている。 薬・洗剤など注意が必要な物品は目に付かない所に保管するなどしている。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入所者が行方不明になり、三時間後に無事発見されたという経緯があり、その後、事故防止の観点から、玄関の施錠、ココセコム の 装 備 を 行 な っ た 。 又 事 故 報 告 書 を 作 成 し 、 職 員 間 で 情 報 の 共 有 化 を 図 っ て い る 。	○	様々な事故を想定した定期的な勉強会を設ける必要性があると思われる。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		○	看護師の指導のもとに、定期的な訓練の機会を設けていきたい。
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	隣近所との付き合いを大切にしている。(毎年「敬老の日」「開園記念日」には、近所に紅白饅頭を配ったりしている。今年は敬老の日に、お向かいよりお花を頂く。)	○	近隣の住民の方たちや、警察、消防にも協力が得られるような働きかけが必要と思われる。
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	それぞれの利用者の体調、生活状況などについては、家族へのきめ細かい連絡が出来ていると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックなどで体調の変化ならびに、看護職員・医療連携病院による健康管理により、早期に体調変化を把握している。		
74 ○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効などについては、処方箋を見て、確認するようにしている。 薬局にて一包化してくるもの、職員が分包するものがあるが、誤薬のないよう努めている。	○	服薬の管理は徹底しているが、副作用・用法などについても、職員全体が把握するように努めたい。
75 ○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便のチェックをし、便秘している時は、下剤の調整をするなど気を配っている。		
76 ○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの出来ない利用者についても、職員が磨いたり、液体歯磨き剤を使うなど工夫している。 夜間に入れ歯を預かり、洗浄している。		
77 ○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、一人ひとりの体調の把握に役立てている。又、食事介助の必要な利用者には、飲み込みの状態に気を使いながら、支援している。 水分摂取量を記録している。		
78 ○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対策の一つとして、塩素系漂白剤による、手すりの消毒を一日に二回行っている。又、消毒液(オスバン液)の薄め液での床拭きを毎日施行している。利用者には、食事前の石鹸での手洗いなどを励行している。 感染症発生の恐れがある時はマニュアルを作成し、職員が予防のための取り組みを理解するように徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	二日ごとに食材の買出しをし、常に新鮮な材料を使うよう心がけている。又、調理器具などは毎日、漂白剤につけるなどで衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周辺などには、ごみなどを散らかしたりしないよう努め、生活ごみなどは、民間業者に委託している。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂は、いつも利用者が集まれるように配慮し、ブラインドなどを使用し、光などを調整するようにしている。又、季節感のある、装飾物をするなどの工夫をしている。		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれの利用者が各居室で休養したり、食堂にて他の利用者と過ごすことも出来るようになっている。		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各利用者や、家族が使いやすいように工夫し、好みの物を置いて生活している。		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	便失禁等があった時などは、居室の換気、廊下の換気扇などを使い、臭いを除去するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部構造は、一本の廊下の左右に居室、洗面所が並び、死角となる空間がなく、ひと目で利用者の行動が把握出来るようになっている。 廊下には手すりがつけられており、安全に配慮され、尚、歩行訓練にも適していると思われる。		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の壁には、利用者の写真を貼り、洗面所、トイレなどを表示するパネルなどを貼り、場所の確認をしてもらっている。		
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には、花壇を作り、駐車場には、家庭菜園などがあり、庭いじりの好きな利用者が、野菜の収穫、草取りなどをしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

○利用者にとって最大の楽しみである食事に関しては、全職員が、当番制で献立を作り、買出し、調理に関わっている。毎日違った人が、違った味付けで調理することにより、食欲もあり、毎日の生活の活力になっていると思う。

○毎日の掃除はもちろん、1日2回の手すり、トイレ、ドアノブの消毒などを励行し、開設以来6年間、利用者のインフルエンザの発生は一度もない。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	高齢者グループホーム はる 2階	評価実施年月日	平成20年10月1日
評価実施構成員氏名	松本・赤坂・六間口・須藤・西海・大山・堀内		
記録者氏名	工藤知伸	記録年月日	平成20年10月15日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	介護サービスを提供する上での基本方針としている	○	全員が周知するよう努力する
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の理念に基づいて取り組んでいる。	○	職員全体が基本方針を念頭におけるよう、会議の中においても再確認していく。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	近隣の商店に利用者を伴って買い物などに行ったり、近くの公園に散歩に行ったりしている。	○	地区センターでのサークル活動の見学などを検討していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎年「敬老の日」「開園記念日」には、近所に紅白饅頭を配ったりしている。今年は敬老の日に、お向かいよりお花を頂く。		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、班長なども勤め、町内会費の集金などには、利用者を同行して各戸を回った。 管理者は、地域活動に参加し地域の人と交流を深め、介護等の情報の発信などにも努めている。地域の人から、ポータブルトイレの寄贈を受ける。		
6	○ 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方に、地域運営推進会議のメンバーとして参加していただいている。	○	地域にいる高齢者の把握などをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日常生活の中で、介護計画書における援助目標などを実践できるよう努めている。	○	全体会議・フロア会議などを通して、自己評価・外部評価の意義を確認していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、色々な事例報告を通し、サービスの実際を知ってもらい、アドバイスなどを聞いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	会議・研修会の提出以外には行き来する機会は少ないが、生活保護の利用者については、保護課職員と連携の上、行き来する機会を設けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用はしていないが、すでに研修会に参加し、その必要性は感じているところである。	○	身元引受人の不明な人については、成年後見制度の活用が必要と思われる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の観点から、利用者の権利を作成し、職員にも周知している。	○	毎月開催しているフロア会議(サービス担当者会議)において、改めて虐待の事実がないかを確認していきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書・契約書を家族に説明し、質問・疑問等には、常に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特にそういう機会はないが、生活保護の人は市の保護課の担当者、ならびに民生委員との面会の場を設けている。	○	利用者が持つ、不満・苦情をどうすれば聞くことができるのか、外部者とは、どういう立場の人なのか検討していきたい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	3ヶ月ごとに家族に個人個人の新聞を作り、健康状態・行事などの写真を載せ、発送している。又、金銭管理については、手許金明細書などを請求時に同封している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者や職員がいつでも苦情を聞く体制は出来ている。	○	家族会などを設け、不満・苦情などを率直に言えるような機会を作っていきたい。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月末に行われる全体会議、第一水曜日に行われるフロア会議、必要な時に開かれる主任者会議を設け、出来るだけ沢山の職員の意見を反映させる努力をしている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急時などには、事務長・主任などが対応にあたるなどの体制が出来ている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	一階と二階の職員の異動を4ヶ月ごとに1名ずつ行なうことにより、各階の職員が、どの利用者にも対応できるような体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎年、札幌で行われる「グループホーム介護スタッフレベルアップ研修会」(一泊二日)には、二名ずつ参加し、意識向上に努めている。	○	車椅子利用者の入浴方法など、当施設にあった技術的指導を受けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当ケアマネジャーが月一回、地域包括支援センターにて、他の施設職員と情報交換するなど、交流を深めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	より働きやすくするための工夫は、その都度検討し、改善している。 社員旅行等の実施。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得に関しては、有休を使うなどの配慮をしている。 フロア会議・全体会議等の参加により把握につとめている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所当初は、出来るだけかわりを持ち、不安を解消し、環境に慣れるよう努力している。 毎日の挨拶、声かけの他に日常の言動を見ることが、人となりを知るように努力していく。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者ばかりでなく、家族の訴えを十分に聞く姿勢をいつも持っている。 入居前のお話を聞くと同時に、こちらから各人の新聞(お知らせ)を作り、定期的にお知らせする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その本人にとっての問題点などを職員間で話し合い、迅速に対応するよう努力している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者との会話の中から求めることを探り、それに添えるよう行動する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中、また各種行事等で、共に時間を共有することによって、利用者の性格を知り、仲間意識が芽生え、より良い信頼関係を構築するよう努力している。		
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者さん新聞の発行、又は面会時に利用者さんのことをお知らせすることで家族の希望も聞く。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お年寄りが入居することにより、本人と家族の確執がなくなり、親子関係を取り戻すことが出来た家族もあり、これからも家族との関係の理解に努めていきたい。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望により馴染みの人を訪問・又電話にて会話をする。	○	なじみの人にも、訪問してもらえるよう働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う人同士、食事の席を隣にしている。 もめ事があった時はその都度、席替えを行い対応し、利用者が穏やかに過ごすことが出来るようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ドライブ・買い物・温泉、以前住んでいた住居への訪問等を行なっている。	○	継続して、かつ全員に広げて行きたいと思っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買い物の同行・散歩・夜の晩酌。 家事手伝い(食器洗い・洗濯物たたみ等) 毎月のフロア会議で、一人ひとりが出来ることを、興味のありそうなことを検討し、実施に移している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に生活暦などを記入していただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間シート記録を個々に記録している。	○	一人ひとりの過ごし方などきめ細かい配慮が出来るよう努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の意向を聞き、フロア会議で職員の意見も聞き介護計画書を作成している。	○	家族の意向を十分に反映させられる介護計画にするため、普段から家族とも十分に連絡を取れるよう配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、新たな課題が生じた時は職員間で話し合い、又、家族にも、その旨を報告している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の24時間シートに職員全員が目を通し利用者の様子を把握している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の要望には出来るだけ応じられるよう努力している。 温泉、薬草風呂の入浴・飲み会など等	○	家族や本人の要望には、出来るだけ応じられるようにしているが、事業所の機能性を高められるよう配慮していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア(音楽・手品)の慰問を受けている。	○	運営推進会議などに、民生委員にも参加してもらったこともあるが、他の機関とも今後協力してもらえるよう働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	デイサービスの利用を検討したことがある。	○	地域における他のサービス事業者とも話し合える機会を持てるよう検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネージャーが、地域包括支援センターとの懸け橋となり必要な調整に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調に変化があった場合、看護師等に相談し早期に受診するように努め、病院との連携を綿密にしている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在、協力医院等の週1回相談や指導を受け実施している。		
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の中に3人看護職員を確保しており、健康管理を支援している、又毎週一回協力病院の看護師が来訪し、健康状態の点検を行い、又、アドバイスをしてもらっている。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入院先の病院に行き、具合の様子を伺うとともに、支援できることはないか考えている(洗濯等)		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	全員ではないが、一部の利用者さんと家人とで話し合いが出来ているが、職員が周知していないケースもある。	○	入所の際に、そのような話し合いも必要と思われる。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家人と本人の希望を踏まえ行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居する際にパンフレットや見学をしてもらい、納得した上で入居してもらっている。		
・ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の人格を尊重し、声かけ等には、丁寧に、かつ理解してもらえるように言動に注意している。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個人ごとに心情を把握し、心配や不安な気持ちを持たないよう心がけている。	○	利用者全員が、思いや希望を表に出すことが出来ず必ずしも、希望をかなえられないこともあり、今後の課題として、検討していきたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の顔色を伺うとともに、体調をみて、雑用等、協力してもらって存在価値を高めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容・美容の希望があれば、送迎の支援をしている。 本人の希望する、化粧品等をそろえる、又洋服の購入などの声かけを行い、何かやる気を引き出せないかと考えている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	味噌汁作り、材料の下ごしらえなど、利用者が出来ることは、みんなで協力してもらっている、配膳、後片付けなども手伝ってもらっている。 利用者の誕生日には、その人の好みの物を用意したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒の希望者には、夕食時に提供している。また、喫煙に関しては、場所を定め、タバコの管理は職員が行うようにし、楽しみながら、喫煙している。		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用者についても、排尿、排便を記録(排泄パターンの把握)することで、ポータブルトイレに移行できるように支援をしている。 車椅子生活者にも、排泄は出来るだけポータブルトイレを使うなどの支援を続けている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回限られた時間での入浴であるが、他のユニットの入浴日を利用すれば、週4回の入浴が可能である。お風呂好きな人、2名が週4回の入浴を楽しんでいる。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの利用者に寝具類の洗濯なども記録し、いつも清潔な状態になっているよう支援している。 夜間は、室温などにも注意し、暑かったり、寒かったりしないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々生活の中に書き取り、書道、盆踊り、体操、歌などを余暇活動として取り入れている。 毎年行事として、美瑛の丘、紅葉散策など可能な限り外出の機会をもっている。	○	それぞれの人が、十分力を生かせるような取り組みをしていきたい。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望者には、現金を持たせ、買い物してもらったり、支払の練習をしてもらうよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物を希望する利用者に同行し、買い物の支援をしている、二日に一度の食材の買出しには、利用者が気晴らしに同行している。(日常的に実施)		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	夏のラベンダー散策、紅葉狩りなど季節ごとの行事には、外出の機会を出来るだけ設けている。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者には、手紙を出したり、電話をかけるなどの支援をしている。 家族へ年賀状の発送。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも、誰でもが、訪問できるように取り組んでいる。(安全確保のため、玄関に施錠しているが、チャイムを鳴らすことで、職員が直ぐに開錠する。)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は、徘徊等による危険防止のため、やむを得ず行なっているが、それ以外の身体拘束は一切行なわず、職員も十分に周知している。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊等による事故発生が懸念されるため、玄関には、終日施錠し、家族からの要望につき窓に柵をつけている利用者が一名いる。来客などには、チャイムを鳴らすことにより、職員が直ぐ開錠することとし、施錠についても家族に説明し理解をえている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼は終始、3名の職員が利用者の様子を把握し、夜は、2～3時間毎に見回りするなどの体制を整えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の居室内での持ち物については、掃除の時などにそれとなく注意を払って点検するようにしている。 薬・洗剤など注意が必要な物品は目に付かない所に保管するなどしている。 一部分の物品は施錠管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入所者が行方不明になり、三時間後に無事発見されたという経緯があり、その後、事故防止の観点から、玄関の施錠、ココセコム の 装 備 を 行 な っ た 。 又 事 故 報 告 書 を 作 成 し 、 職 員 間 で 情 報 の 共 有 化 を 図 っ て い る 。 利用者の状態に応じた見守りを行なっている。	○	様々な事故を想定した定期的な勉強会を設ける必要性があると思われる。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルはあるが、定期的には行っていない。	○	いつでも、職員が対応できるように目につく所にマニュアルを置いておくべき。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	隣近所との付き合いを大切にしている。(毎年「敬老の日」「開園記念日」には、近所に紅白饅頭を配ったりしている。今年は敬老の日には、お向かいよりお花を頂く。) 火災訓練は年1回実施。	○	近隣の住民の方たちや、警察、消防にも協力が得られるような働きかけが必要と思われる。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全に出来る限り希望にあった暮らしが出来るように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックなどで体調の変化ならびに、看護職員・医療連携病院による健康管理により、早期に体調変化を把握し介護している。		
74 ○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効などについては、処方箋を見て、確認するようにしている。 薬局にて一包化してくるもの、職員が分包するものがあるが、誤薬のないよう努めている。	○	服薬の管理は徹底しているが、副作用・用法などについても、職員全体が把握するように努めたい。
75 ○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便のチェックをし、便秘している時は、下剤の調整をするなど気を配っている。 おやつには、乳酸菌、そして毎日のラジオ体操を欠かさないよう実施。		
76 ○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯みがきの出来ない利用者についても、職員が磨いたり、液体歯磨き剤を使うなど工夫している。	○	不十分と思われる、毎食後の実施
77 ○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、一人ひとりの体調の把握に役立てている。又、食事介助の必要な利用者には、飲み込みの状態に気を使いながら、支援している。		
78 ○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対策の一つとして、塩素系漂白剤による、手すりの消毒を一日に二回行っている。又、消毒液(オスバン液)の薄め液での床拭きを毎日施行している。利用者には、食事前の石鹸での手洗いなどを励行している。 感染症発生の恐れがある時はマニュアルを作成し、職員が予防のための取り組みを理解するように徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	二日ごとに食材の買出しをし、常に新鮮な材料を使うよう心がけている。又、調理器具などは毎日、漂白剤につけるなどで衛生管理に努めている。 夏場には、刺身等出さない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	やむを得ず施錠している。 玄関にインターホーンを設置。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂は、いつも利用者が集まれるように配慮し、ブラインドなどを使用し、光などを調整するようにしている。又、季節感のある、装飾物をするなどの工夫をしている。		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれの利用者が各居室で休養したり、食堂にソファを置いて、テレビをみたり、タバコを吸ったり、個々にあわせて場の提供をしている。		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時、自宅の居室と同じになる様に、相談して配置している。		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	便失禁等があった時などは、居室の換気、廊下の換気扇などを使い、臭いを除去するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部構造は、一本の廊下の左右に居室、洗面所が並び、死角となる空間がなく、ひと目で利用者の行動が把握出来るようになっている。 廊下には手すりがつけられており、安全に配慮され、尚、歩行訓練にも適していると思われる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者さんの出来ることを配慮して、役割を持てていただいている。(一部の人はだか。)		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には、花壇を作り、駐車場には、家庭菜園などがあり、庭いじりの好きな利用者が、野菜の収穫、草取りなどをしている。 外気浴の為、ベンチの設置。		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- 利用者さんの入居前の生活状況を踏まえて、作業を通して毎日役割を決めて生活している。それが習慣となっている。
- 食事の全てが手作りとしている。
- 利用者さんと会話の時間を多くしている、居室にこもることなく生活できている。